



セコム株式会社
株主通信

6月
2011年

第50期決算報告

グループの総力を結集する “ALL SECOM”で お客様のご期待に応える

東日本大震災への対応、
当期の事業活動、
セコムグループの成長戦略について、
社長の前田修司から
ご説明させていただきます。

セコム株式会社 代表取締役社長

前田 修司



東 日本大震災に対するセコムグループの 取り組みについてお話しください。

このたびの東日本大震災でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたします。また被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

セコムでは3月11日の大震災発生直後に災害対策本部を設置し、被災状況の確認に努めました。そしてライフラインの途絶や、お客様の被災によりオンライン監視が困難となったご契約先について全力で復旧に当たりました。

復旧活動にあたっては、救援物資の輸送に自社ヘリコプターを活用。衛生環境の維持に必要となるマスク500万枚や手指消毒剤1万リットルを被災地の自治体に無償提供するとともに、セコム医療システム(株)と提携病院の医療チームを現地派遣しました。また、(株)パスコ制作による被災地の浸水マップの提供など、タイムリーな被災地支援に努めました。今後も被災地の復旧・復興の一助となる支援活動を継続して行ってまいります。

セ キュリティサービス事業ではお客様訪問と 市場への新商品の投入に力を入られましたね。

既存のご契約先を専任のお客様満足度促進担当が訪問し、お客様の声を直接聞かせていただくことで親密なリレーションを築くことに力を入れました。お客様のニーズを伺うことで、お客様がセコムに望まれていることを知り、必要とされている付加サービスや商品をご提案することができます。さらに新しいサービスや商品の創出に繋げることも考えています。

新商品としては、「インテリジェント非常通報システム」や「レーザーセンサー」など、先進的かつ革新的なセキュリティシステムを次々と発売し、新しいお客様の獲得や既存のお客様への付加サービスとして、セキュリティサービス事業の売上に寄与しました。

この2つの施策は、お客様の声にお応えするセキュリティサービス事業の基本施策として、今後も引き続き力を入れていきます。

これらの活動以外でも、羽田空港新国際線旅客ターミナルで常駐警備など、JR九州・博多駅の駅ビルでは「トータックスZETA」と常駐警備などを受注しました。

今年1月に発売30周年を迎えた「セコム・ホームセキュリティ」は、契約件数が約49万8000件に達し、引き続き市場の開拓に邁進します。

海外では、台湾、韓国、中国、英国など11の国と地域でセキュリティシステムの普及拡大に取り組むとともに、12番目の進出国として、新たにニュージーランドで事業を開始しました。

なお、子会社であるセコムテクノサービス(株)に対する株式の公開買い付けを実施し、7月1日付で吸収合併いたします。この合併により、工物品質の向上やメンテナンスサービスのさらなる拡大に努めます。

その他のセグメント別の事業活動と今後の見通しについてお聞かせください。

防災事業では、新規市場の回復に不透明感が残るなか、防災設備のリニューアル需要を喚起することで強固な収益体制を築きたいと考えています。

メディカルサービス事業は、訪問看護や薬剤提供などの在宅医療サービスの拡大を中心に、シニアレジデンスの運営、医療機器の販売などを積極的に推進しました。今後は、地域医療機関や施設との連携強化などで、大震災で顕在化した課題の解決にも取り組む予定です。

保険事業は、「セコム安心マイホーム保険」の内容を改定。お客様が補償内容を自由に選択できるようにし、保険料の割引制度を充実させるなど、ご契約内容の差異化を図りました。

地理情報サービス事業は、国内において測量会社の東武計画(株)を、海外においてはベルギーのエアロデータ社を子会社化

するなど、体制の強化を図りました。今後とも、震災対策にも貢献できた衛星事業の拡充に取り組みます。

不動産開発・販売事業は、セキュリティ・防災対策を完備した大型分譲マンションの販売に力を入れました。

情報通信・その他の事業は、当社のデータセンターとして5番目の施設となる「セキュアデータセンター」新館を東京都内に開設。BCP(事業継続計画)を考えるお客様からの需要が急増しているため、さらなる拡充を検討しています。

昨年11月、セコムグループの総力を結集する“ALL SECOM”を宣言されましたが、目的は何ですか。

“ALL SECOM”とは、セキュリティ事業を中心に、その他の事業との相乗効果の創出を進めるという従来の考え方をさらに発展させ、すべてのセグメント事業が相互に連携を図るという考え方です。そして、“ALL SECOM”で、新たな市場の開拓と新しいサービスの創造を実現することを目的としています。

その第一弾として、営業機会の共有を目的に、各事業分野から選抜されたスペシャリストから構成されるプロジェクトを発足させました。これから様々な施策を実行し、今までにない成果を得られると確信しています。

セコムグループが果たすべき役割は増える一方ですね。

社会のニーズは、大きく変化しています。今回の震災では、これまで見えなかった新しい社会のニーズも顕在化しました。

また、お客様の訪問を通じてセコムグループに寄せられた期待の大きさも改めて感じています。

セコムグループは、変化、拡大する社会のニーズを的確に把握し、多様化するお客様からのご期待やご要望に、“ALL SECOM”でお応えしてまいります。

未曾有の大災害、東日本大震災に セコムグループの総力をあげ、支援活動を展開

東日本大震災の被災者の皆様にご心からお見舞いを申し上げます。

一日も早いお客様の「安全・安心」の確保に努め、セコムグループの総力をあげ、復旧・復興支援活動に取り組んでまいりました。

お客様を訪問し、復旧活動を支援

今回の東日本大震災の発生により被災されたお客様に対して、被災状況確認のため、早急な訪問の実施に努めました。

被災地にあるセコムの事業所には全国から多くの社員が応援に入り、現地社員とともに、被災されたお客様の復旧・復興支援活動に当たりました。



マスク500万枚などを無償提供

3月15日、被災地に向けて、マスク500万枚と手指消毒剤1万リットルを用意し、各避難所に無償提供させていただきました。

避難所生活では、インフルエンザの感染などを予防するため、安心な衛生環境が求められていました。また、被災住宅の後片付けなどを悪環境下で行うことから、マスクや手指消毒剤が不



可欠と考えたためです。支援物資は自治体などを通じて、避難所に届けられました。

緊急災害医療援助チーム“SDMAT”を発足

セコム医療システム(株)は、同社の提携病院の医療スタッフとともに、緊急災害医療援助チームSDMAT(Secom Disaster Medical Assistance Team)を発足しました。

3月26日から4月15日まで、医師、看護師などによる5名を1チームとして、複数のチームが交代で被災地の医療施設や避難所などで医療救護活動を行いました。また、避難所では炊き出しも実施しました。



セコムの提携病院が医療救護班を派遣

セコム医療システム(株)の提携病院である新東京病院、千葉中央メディカルセンターは、(社)全日本病院協会と(社)日本医療法人協会の要請を受け、3月12日から医師、看護師、臨床工学技師、事務スタッフ

など各病院から4名ずつの医療関係者を宮城県にある公立気仙沼総合病院に派遣しました。

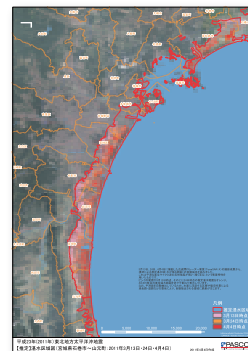
また、手稲溪仁会病院でも北海道庁からの要請を受け、震災で負傷された方を岩手県花巻空港から北海道千歳自衛隊空港まで搬送するための医療救護を行いました。



地理情報サービスで正確な状況把握を支援

(株)パスコは、レーダー衛星の撮影データなどを使い被災地全域の情報の収集・処理を行い、関係各機関へ情報提供することで、被災地の状況を正確に把握するための支援を行いました。

また、各種救護活動のサポートになるよう同社ホームページ上でも同様の情報を公開しました。



トータルなセキュリティで 企業のBCP(事業継続計画)の実行をサポート

情報通信事業のグループ会社、セコムトラストシステムズ(株)が提供する「セキュアデータセンター」や「セコム安否確認サービス」の普及が進んでいます。

セコムトラストシステムズは、2000年に国内最高水準のセキュリティを誇る「セキュアデータセンター」サービスを開始。そして昨年8月には、より高度なセキュリティレベルを誇る「セキュアデータセンター」新館をオープンさせました。2011年3月現在、重要な情報資産(サーバーやデータ)を預けていただいている会社数は約400社にのぼります。

また、安否確認メールの一斉送信など、災害発生時の初期対応をセコムトラストシステムズの専門スタッフが支援する「セコム安否確認サービス」をご導入いただく企業も増えています。業務の継続・再開に向け、社員やその家族の安否や現地の被災状況を確認できるので、広域におよぶ災害時などでも速やかに情報収集とその共有化ができ、その後の対応が迅速に取れると評価をいただいています。

セコムトラストシステムズは、これまでにセコムグループで培ってきた、高い技術力と運用力、トータルなセキュリティをサービス基盤にして、BCP対策の作成から大規模災害時の初動支援・災害復旧支援まで、一貫したサービスを提供していきます。



「セキュアデータセンター」新館の監視室

セコムグループで12カ国目の海外進出 ニュージーランドのガードオールNZ社を買収

セコムはオーストラリアのシドニー市にある現地法人、セコムオーストラリア(株)を通じて、ニュージーランドのオークランド市に本社を持つセキュリティ会社、ガードオールNZ社の発行済み株式80%を取得し、セコムガードオールNZ(株)として子会社化しました。

ニュージーランドへの進出は、セコムとして海外12カ国目となります。

セコムは、1990年12月にオーストラリアに進出。以来、セコムオーストラリアではオンライン・セキュリティシステムをはじめ、常駐警備、巡回警備、機器の設置・工事、保守業務を提供しています。そして、このトータルなサービスの提供に高い評価をいただいています。

このたび子会社化したセコムガードオールNZは、ニュージーランドで大手金融機関や小売チェーンストアをはじめ、企業や空港、官公庁などにサービスを展開し、ニュージーランド国内において、圧倒的なシェアを持つセキュリティ会社です。

セコムグループは今後、オーストラリアとニュージーランドでの両社の事業基盤を活用し、オセアニアでのセキュリティ事業を強化していきます。



セコムガードオールNZ(株)の本社と現地社員

日本初の立体画像を使った歩行型顔認証システム 「ウォークスルー顔認証システム」を開発

画像処理技術を使い、自然に歩いている状態で出入管理から不審者検知までを行える歩行型顔認証システム「ウォークスルー顔認証システム」(仮称)の本年度内の商品化をめざし、セコムIS研究所で研究開発が進められています。

近年、鍵の盗難や紛失、貸与による侵入犯罪や個人情報漏えいが後を絶ちません。これらを防ぐため、企業では指紋や静脈パターンなどを使った生体認証による認証システムを導入し、より厳格な出入管理を行っています。しかし、指紋や静脈パターンを使った認証でも特定の操作が必要のように、従来の顔認証システムでは、専用のカメラに対し正面を向くか、静止することが必要でした。

そこで、IS研究所では、このような特別な動作を必要とせず、自然な歩行状態で、スピーディーに顔認証ができるシステムの実現に取り組んでいます。

セコムではこれまでに、顔検知機能を搭載したインターホン「セキュリティフェイスインターホン」やオンライン画像監視システム「セコムAX」など、独自の画像処理技術を駆使したシステムの開発・販売をしてきました。

そしてこのたび、これまでに培ってきた技術を土台に、より高度な画像処理技術を使い、画期的な顔認証システムの商品化に目途をつけました。高度な認証と利便性を両立させた理想的なシステムの実現で、ワンランク上のセキュリティをご提案します。



「アヴリル・ラヴィーン世界最速アルバム試聴会」 セコム本社で厳重警備のもと開催

本年1月24日、東京・原宿にあるセコム本社ビルで、世界的な女性ロックシンガーであるアヴリル・ラヴィーンさんが3月に発売したニューアルバム「グッバイ・ララバイ (Goodbye Lullaby)」の世界最速試聴会が開催されました。

アヴリル・ラヴィーンさんは、過去3枚のアルバムを全世界で約4000万枚売り上げた世界的に有名なミュージシャンです。アヴリル・ラヴィーンさん本人が登場することに加え、発売前のニューアルバムの試聴会だったため、厳重なセキュリティが不可欠であり、主催者からセコムに警備と会場の提供が要請されました。

セコムは、常駐警備員による入館者確認や研究開発中の「ウォークスルー顔認証システム」による入館者認証をはじめ、屋外監視ロボット「セコムロボットX」、金属探知器による持ち物検査など、セキュリティ面で全面協力しました。

試聴会の模様はテレビ東京系「ワールドビジネスサテライト」のトップニュースをはじめ、多くのテレビ、スポーツ新聞などに取り上げられ、セキュリティはセコムという印象をより強くすることができました。



厳重なセキュリティのもと開催された試聴会
photo by Eiji Tanaka

特別な操作をせずに個人認証できる
「ウォークスルー顔認証システム」

日本初、AEDをオンラインで管理 「セコムAEDオンライン管理サービス」を発売

昨年11月2日、AED(自動体外式除細動器)をオンラインで自動的に管理する「セコムAEDオンライン管理サービス」の販売を開始しました。

2004年からAEDの使用が医療関係者だけでなく、広く一般に認められるようになりました。セコムは同年9月に、定期的に交換が必要な消耗品の自動送付や、AED使用後に交換が必要となる電極パッドの発送など、AEDの管理をトータルに提供する「セコムAEDパッケージサービス」を発売。現在では、空港やフィットネスクラ

ブ、金融機関、教育機関などに設置され

2004年のサービス開始以来
447件(2011年3月末現在)
もの救命に貢献しました。

AEDの普及が進む一方で、AEDの点検漏れにより故障が発見されず、いざというときに使用できないという事態が心配されます。

「セコムAEDオンライン管理サービス」は、セコムがオンラインで24時間AEDの状態を管理することにより、自動的にAEDの日常点検を行ったり、消耗品の使用期限の管理などができ、お客様の管理負担を大幅に削減できます。

本サービスの発売により、より多くの救命に貢献できることが期待されます。

CO₂の排出量削減に貢献 環境にやさしい電動スクーターを導入

セコムは本年4月から、業務車輛として電動スクーターを導入しました。セコムグループでは、緊急対処などのサービスを提供するうえで重要な役割を持つ車輛について、低公害車への切り替えや「エコ安全ドライブ」の励行などを実施。全社的にCO₂排出量削減に取り組んでいます。昨年12月にはこれらの取り組みが評価され、環境省から「平成22年度大気環境保全活動功労者」として表彰されました。

2011年3月現在、セコムグループが保有する四輪車輛約5000台のうち、約83%が国の定めた低公害車になっており、ハイブリッド車の導入など業務車輛の環境対策化を加速させています。

一方、二輪車も多く使用していますが、今回使用を開始した電動スクーターは、走行時に地球温暖化

の原因となるCO₂を排出しない、環境に優しい車輛です。また、静音性にも優れていることから、早朝・夜間や住宅街でも静かに走行できます。

セコムでは、現在使用しているガソリンタイプのスクーターの一部を電動スクーターに切り替え、充電サイクルなどの運用ノウハウを蓄積し、全国展開の準備を進めています。

セコムは今後もあらゆる事業活動において、地球環境保全に積極的に取り組んでいきます。



AEDの状態をオンライン管理



セコムが導入した電動スクーター

家庭の「安全・安心」を創出し進化を続ける「セコム・ホームセキュリティ」が発売30周年

1981年1月、セコムは日本で初めてとなる家庭用安全システム「マイアラーム(現『セコム・ホームセキュリティ』)」を開発し、販売を開始しました。

発売当時は“日本は世界で最も安全な国”と言われていました。しかしセコムは、地道に家庭のセキュリティの重要性を訴えてきました。

その結果、ご契約件数は年々増え続け、2011年3月末現在、約49万8000件のお客様にご家庭の「安全・安心」を提供しています。セコムは独自の研究開発部門を持つ強みを生かし、社会動向や犯罪動向、技術の進歩、そして将来を先読みしながら革新的なシステムやサービスを創出し続けています。

「セコム・ホームセキュリティ」も、これまでに幾度もの進化を繰り返してきました。また、ホームセキュリティだけでなく、より「安全・安心」に暮らしていただけるよう、救急通報システム「マイドクター」やホームセキュリティのお客様向け電話健康相談サービスをはじめとした、お客様の健康をサポートする「セコム・メディカルクラブ」、生活支援サービス「セコム・ホームサービス」など、付加価値の高いサービスを提供しています。

セコムはこれからもコーポレートメッセージ「信頼される安心を、社会へ。」のとおり、ご安心いただける高品質なサービスを提供し続けていきます。



「セコム・ホームセキュリティ」のコントローラー

小規模集合住宅向けセキュリティシステム「セコムAS」を販売開始

昨年7月、セコムはアパートや賃貸マンションなどの小規模集合住宅向けのオンライン・セキュリティシステム「セコムAS」を開発し、販売を開始しました。

これまで小規模集合住宅などでも、エントランスや駐輪場などの共用部に監視カメラを設置するなどのセキュリティ対策をする場合があります。しかし、各戸にセキュリティシステムを導入する例は非常に稀でした。

一方、一人暮らしや高齢者のみの世帯が増えており、防犯・防火を中心に、安全に暮らすための機能が求められています。

そこで、セコムはホームセキュリティとインターホンを一体化させた小規模集合住宅向けのオンライン・セキュリティシステム「セコムAS」を発売しました。

「セコムAS」では、防犯・防火機能に加え、オプションとして救急通報ができる「マイドクター」や高齢者などの見守り機能としてご利用いただける「ライフ監視機能」を組み合わせることもできます。

セコムは、お住まいのタイプや規模にあわせたトータルな「安全・安心」をご提供できるよう、システムの開発と普及に努めていきます。



小規模集合住宅にもホームセキュリティ

生活支援サービス「セコム・ホームサービス」 サービスメニューをさらに拡充

セコムは2005年から、「セコム・ホームセキュリティ」のお客様を対象に、不在時の家の見回りやお部屋の掃除、庭のお手入れ、鍵や窓ガラスのトラブルに対応する「セコム・ホームサービス」を提供しています。そして昨年6月からは、「セコム・ホームセキュリティ」のお客様以外にもサービスをご利用いただけるようになりました。*

セコムのセキュリティスタッフをはじめ、セコムが厳選したサービス提供会社によるサービスは、「セコムだから安心して任せられる」と高い評価をいただいています。

より多くのお客様に「安全・安心」、便利で快適な暮らしをご提供するため、多彩なサービスメニューをご用意しています。

現在は、高齢世帯や単身世帯向けのサービスも拡充しています。たとえば、離れて暮らす親御さん宅のお部屋の片づけなどに、短時間でもご利用いただける「おてつだいサービス」や、遠方にあるお墓の手入れや墓参代行などを行う「お墓の見守り」サービスの提供を開始しました。

ライフスタイルが多様化する現在、お客様のお困りごととも様々です。「セコム・ホームサービス」はあらゆるお困りごとに応えられるよう、さらなるサービスの拡充をめざします。

*一部のサービスを除きます。



お客様の困ったにお応えする
「セコム・ホームサービス」

「セコムの健康食品」がリニューアル 新ブランド「からだViBI」が誕生

高い安全性と高品質、細やかなカスタマーサービスで、お客様にご愛用いただいていたセコム医療システム(株)の「セコムの健康食品」が、新ブランド「からだViBI(ヴィビ)」として生まれ変わりました。

「セコムの健康食品」が誕生したのは1998年。漢方の未病という考え方と、独自の安全性分析の基準にもとづき、長年にわたり毎日飲み続けられる健康食品を提供してきました。

健康への関心が高まるなか、さらに高い安全性と品質を追求した健康食品を提供したいと考え、「からだ元気に美しく(Vitality & Beauty Innovation)」をコンセプトに、新ブランド「からだViBI」を誕生させました。

また、お電話でセコムの薬剤師と栄養士が健康食品の選び方や飲み合わせなど、お客様からのご相談に応えるサポート体制もご用意しています。

「安全・安心」を追求するセコムが提案する健康食品

「からだViBI」。現在は、7種類をご用意していますが、今後もラインアップの拡充に努めていきます。



安全性と品質を追求した
健康食品「からだViBI」

世界最高レベルのセキュリティを有するデータセンターは 仮想化技術・クラウドの研究開発にも取り組む

● 国内だけでなく世界的に見ても最高レベルの セキュリティを完備しているそうですね。

データセンターはお客様が持つ個人情報や機密情報など、大切な情報をお預かりしている場所です。そのため、データセンターへの入館時には生体認証などによる厳格な入館管理や、許可したエリアまでのアクセスコントロール、入館者の現在位置の追跡、システムを収めた設備の開錠時の自動認証などを徹底して行っています。

そして、インターネットからのサイバー攻撃に対する監視・対処体制を敷き、情報漏えいを発生させない安全なデータセンターとなっています。

● セコムのセンターならではの長所は何ですか。

一つ目は、運用体制です。システムには常にリスクが伴うため、当センターでは不正アクセスやウイルスなどを24時間365日監視し、緊急時には迅速に対応するサービスを提供しています。二つ目は、バックアップ機能です。万一の事態に備えて、複数のデータセンターにデータを隔地保管するサービスを提供しています。三つ目は、BCP(事業継続計画)機能です。たとえば、地震などでお客様のオフィスが使えなくなった場合に備えて、システムの更新などができるスペースを用意しています。

● このところデータセンターのニーズが高まっていますね。

東日本大震災以降、情報漏えいや災害時のBCP対策に加えて、停電対策ニーズが高まり、利用申し込みが急増しています。このため、データセンター機能の拡張を検討しています。

第3回

セコムの研究開発 R&D セキュアデータセンター

セコムトラストシステムズ(株)
取締役 藤川春久



Haruhisa Fujikawa

セコムが常に日本のセキュリティ業界をリードし続けてきた理由は、独自の研究開発体制で、新しいシステムを世に送り出してきたことにあります。今回は、サービス拠点でありながら、仮想化技術の研究開発も行っているセキュアデータセンターをご紹介します。

● 研究開発も行っているそうですね。

最近、「クラウド」という言葉がよく使われますが、これは、サービスに必要なお客様専用システムをお客様が保有する形態ではなく、必要なときに必要なだけサービスとして利用するという形態を意味します。このためには、サービスシステムもこうした利用形態に効率的に対応できる仕組みが必要になります。その一つがシステムの仮想化技術です。今後のサービスインフラは仮想化技術やモバイルデバイス(携帯電話、スマートフォン、Wi-Fi機器)への対応が重要となりますので、こうした分野の研究開発・検証を進め「セコムクラウドサービス」の拠点として拡充を図っています。

● セコムグループを支えるセンターでもありますね。

お客様に使っていただくセンターであると同時に、セコムグループでも使っているデータセンターです。これ以上はないセキュアな建物・設備とIT環境の中でセコムグループのシステムが動いていることは、お客様に大きな安心感を与えていると思います。

行方不明の方や車、緊急事態に遭遇した方を 自分の家族や愛車だと思って対応する

● 屋外用緊急通報サービスの拠点として 果たしている役割は何ですか。

お客様から、「ココセコム」を携帯されている方や車、物などの行方がわからないという電話が入ると、オペレーターが位置情報をお伝えします。また、「ココセコム」を携帯されている方が、非常時などに「ココセコム」のボタンを押されると通報信号がココセコムオペレーションセンターに入り、オペレーターが緊急連絡先に電話し、通報信号を受信したと位置情報をお伝えします。このように、主として電話および通報信号の受信による位置情報の提供を行っていますが、どちらの場合も、お客様から要請があれば、緊急対応員に現場急行を指示し、お客様の安全を確保するまでサポートします。

● どんな体制・心構えで、オペレーションを行っていますか。

24時間365日、万全の体制で運用しています。オペレーターは、有事の際に的確な判断力と対応力を求められるので、全員が事業所で責任者などの経験を積んだ社員です。受信した電話や通報信号の中にはお客様の生命に関わる事案もあるので、一つひとつの事案に意識を集中して任務に当たっています。心がけていることは、自分の家族や愛車が行方不明や緊急事態に遭遇したと思って対応することです。

● 「見つけた」「助かった」という貢献事例を教えてください。

通報信号が入ったので電話で確認したところ、お子さまが出て、「塾の休憩時間にトイレで不審者にパーカーのフードを引っ張られたので、とっさに通報ボタンを押した」とのこと。幸い、不審者は立ち去った後でしたが、念のため、お子さまに

第3回

セコムのフィールド

Field

ココセコムオペレーション
センター

ココセコムオペレーションセンター
センター長 筒井 潤



Jun Tsutsui

セコムのセキュリティシステムは、

安全のプロによるサービスがその質を決めます。

お客様からの位置確認の電話や通報信号に24時間365日対応している
ココセコムオペレーションセンターをご紹介します。

はすぐ教室に戻るように伝え、塾の先生には保護者の方が迎えに来るまで見守っていただくようお願いしました。保護者の方によると「ココセコム」を携帯して2日目で、「心配なので持たせたが、役に立って本当によかった」と、お言葉をいただきました。

また、ご高齢の方が旅行先で具合が悪くなり、通報ボタンを押された時は、すぐにご家族に連絡し、救急車を手配しました。後日、お客様からお礼の電話をいただきました。

● これからの抱負を聞かせてください。

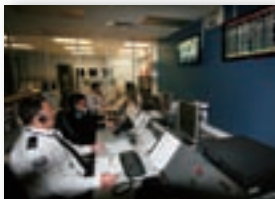
「ココセコム」の普及促進で最も効果があるのが、「うちの子どもに持たせているけど、安心よ」といったお客様のクチコミです。オペレーションの質を高めることによって、そんな口から口へ「ココセコム」の良さを伝えていただけるお客様を増やし、一人でも多くの方に屋外での「安全・安心」をご提供したいと思います。

著名企業や官公庁から次々と受注 オーストラリアで高まる知名度と信頼性

経済成長を続けるオーストラリア。セコムオーストラリア(株)はその経済成長が始まった1990年にシドニー市に設立されました。しかし、セキュリティ市場にはヨーロッパや米国の企業に加えて、地元資本の企業がひしめき、大変困難な状況からスタートしました。

状況が一変したのは2006年。「要求レベルの高いお客様のどのようなセキュリティニーズにも、クオリティの高いサービスで応え続ける品質ナンバーワンのセキュリティ会社になる」という方針を掲げ、業界トップの企業にアプローチし始めてからです。

この年、オーストラリアの4大銀行の系列企業で、同国最大級の資産運用会社が所有するビル5棟のセキュリティを受注。これを



皮切りに、2007年にはシドニー市で開催されたAPECの会場警備を受注。2008年には、やはり4大銀行の一つの銀行本店ビルからセキュリティサービス

政府機関、もう1社は発電所や大使館などが主要顧客であったため、現



在は官公庁からも次々とご契約をいただいています。

躍進を続ける同社の会長・余慶徹は

「多少時間はかかりましたが、ブランドが浸透、確立し、そのブランド力で、さらにお客様が増える、好循環が生まれています」と話します。

長年の地道な努力が実り、同社はいま、「オーストラリアでナンバーワンのセキュリティ会社になる」という目標に向かって邁進しています。



を受注したことで、知名度と信頼性が高まり、業績は拡大の一途をたどりました。

また、首都キャンベラで現地のセキュリティ会社2社を買収。1社は内閣府や国防省、国会議事堂などの

「ドラえもん」を起用して 「ココセコム」のテレビCMの放送を開始

「ドラえもん」を「ココセコム」の新しいイメージキャラクターに起用した新テレビCM『「ココセコム」ドラえもん』篇の放送を、本年4月25日から、全国で開始しました。

「ココセコム」は、GPS(全地球測位システム)衛星と携帯電話基地局の電波を利用した、わが国初の本格的な位置情報提供システムです。お子さまやご高齢の方が行方不明の場合や、車や物の盗難時に位置を検索し、要請により現場急行を行うセキュリティサービスです。月間の位置検索回数は、約100万回に達し、帰宅が遅いお子さまの発見・安全確保などの貢献事例も、これまでで約4600件(2011年3月末現在)となり、屋外での安全を見守るサービスとして、好評をいただいています。

「ドラえもん」の起用は、「ココセコム」の発売10周年と、本年9月3日、神奈川県川崎市にオープン予定である「川崎市 藤子・F・不二雄ミュージアム」へのセコムの協賛を機に実現したものです。

新テレビCMでは、「ドラえもん」が登場し、「ココセコム」が、お子さまの外出を見守るうえで有効なサービスであることを訴求しています。また、誰もが知っている、「ねこふんじゃった」のメロディーに合わせた女の子の可愛いダンスで、「ココセコム」のサービス内容を分かりやすくお伝えしています。



新テレビCMの1シーン

暮らしに役立つ情報を平日毎日発信 情報サイト『セコム安心マガジン』を公開

本年3月1日、セコムのホームページ内に、家庭向けの安全・安心総合情報サイト『セコム安心マガジン』を開設しました。

『セコム安心マガジン』は、暮らしの「安全・安心」をテーマに、暮らしのお困りごとを解決する情報サイトです。あ



多くのアクセスを集める「おとなの安心倶楽部」

らゆる世代の方々に「防犯」「防災」はもちろんのこと、「暮らしに役立つ知恵」や、「健康の知識」、「こだわ

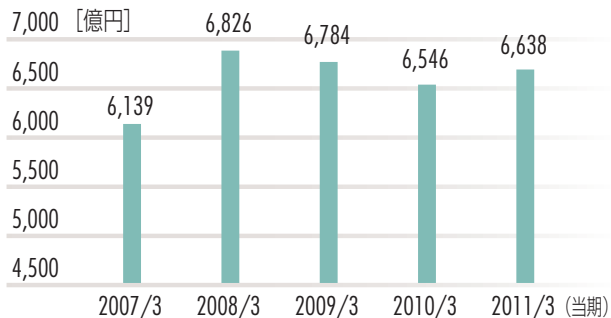
りの食」まで、セコムが提供するサービスで培ってきたノウハウを生かして、独自の視点で情報を発信しています。

特に、『セコム安心マガジン』のメニューの一つ「おとなの安心倶楽部」内にある「月刊 長嶋茂雄」は、セコムのイメージキャラクターを20年にわたり務められている長嶋茂雄さんのインタビューをまとめたもので、多くのアクセスを集めています。

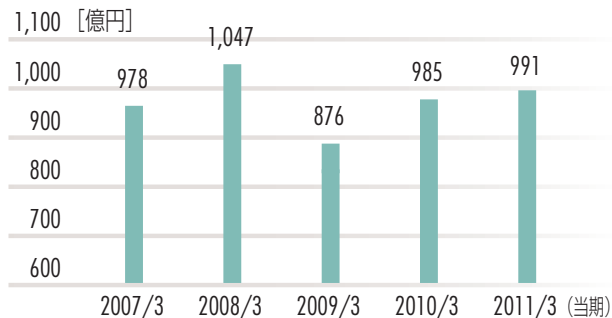
近年、社会の「安全・安心」への関心は、防犯・防災に限らず、暮らしや健康、食の面でも幅広くなってきました。『セコム安心マガジン』で、ご家庭に「安全・安心」な生活をおくっていただくための情報を広く発信していき、「安全・安心」に暮らせる社会を実現する一助になればと考えています。

連結決算 業績ハイライト

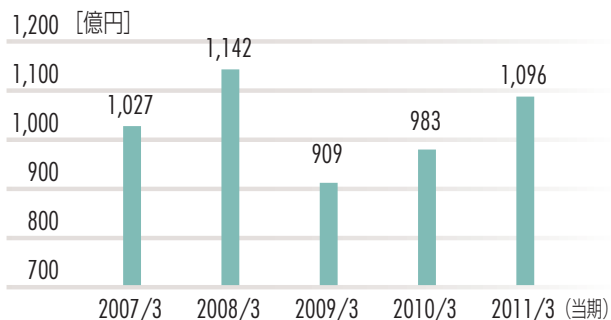
売上高



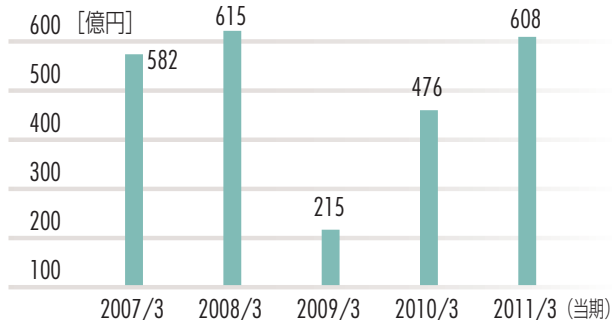
営業利益



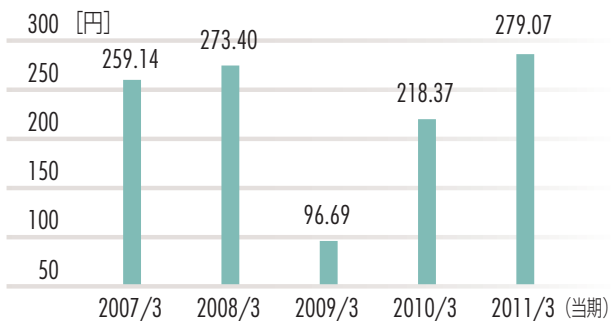
経常利益



当期純利益

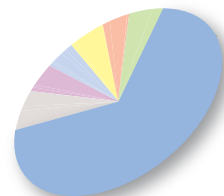


1株当たり当期純利益



事業別売上高内訳 2011/3 (当期)

● セキュリティサービス事業	4,147 [億円]	62.5%
● 防災事業	751	11.3%
● メディカルサービス事業	399	6.0%
● 保険事業	320	4.8%
● 地理情報サービス事業	435	6.6%
● 不動産開発・販売事業	248	3.7%
● 情報通信・その他の事業	336	5.1%



連結貸借対照表(要旨)

2011年3月31日現在

<単位：億円> *注：金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

資産の部

流動資産	4,862
現金及び預金	1,729
現金護送業務用現金及び預金	565
受取手形及び売掛金	739
未収契約料	227
有価証券	73
リース債権及びリース投資資産	154
たな卸資産	210
販売用不動産	597
繰延税金資産	122
短期貸付金	39
その他	403
固定資産	6,079
有形固定資産	2,827
建物及び構築物	1,028
警報機器及び設備	634
土地	977
その他	186
無形固定資産	255
投資その他の資産	2,997
投資有価証券	1,880
長期貸付金	475
前払年金費用	187
繰延税金資産	201
その他	253
繰延資産	1
資産合計	10,944

負債の部

流動負債	2,020
支払手形及び買掛金	259
短期借入金	474
一年以内償還予定社債	29
未払金	228
未払法人税等	193
前受契約料	305
その他	529
固定負債	2,382
社債	140
長期借入金	215
預り保証金	380
退職給付引当金	130
保険契約準備金	1,354
その他	159
負債合計	4,403

純資産の部

株主資本	6,242
資本金	663
資本剰余金	830
利益剰余金	5,497
自己株式	△749
その他の包括利益累計額	△320
少数株主持分	618
純資産合計	6,540
負債純資産合計	10,944

連結損益計算書(要旨)

<単位: 億円> *注: 金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

	当期 (2010年4月1日から 2011年3月31日まで)	前期 (2009年4月1日から 2010年3月31日まで)	増減率
売上高	6,638	6,546	1.4%
売上原価	4,239	4,153	
売上総利益	2,399	2,392	0.3%
販売費及び一般管理費	1,407	1,407	
営業利益	991	985	0.6%
営業外収益	174	91	
営業外費用	68	93	
経常利益	1,096	983	11.5%
特別利益	17	33	
特別損失	57	54	
税金等調整前当期純利益	1,056	962	9.8%
法人税、住民税及び事業税	373	381	
法人税等調整額	13	49	
少数株主損益調整前当期純利益	669	-	-
少数株主利益	61	55	
当期純利益	608	476	27.8%

営業の概況(連結)

当連結会計年度における日本経済は、失業率の高止まりや円高進行、緩やかなデフレ状況など景気に不透明感が残る中、国際経済の回復傾向や各種の政策効果などを背景に、企業収益の改善や設備投資の持ち直しなど、一部に景気回復の兆しが見え始めていましたが、2011年3月11日に発生した東日本大震災により当期末以降の経済環境は不透明な状況にあります。

このような状況の中で、「安全・安心」に対する社会的ニーズはますます多様化・高度化しており、セコムグループは、「いつでも、どこでも、誰もが安全・安心に暮らせる社会」を実現する「社会システム産業」の構築をめざし、セキュリティサービス事業を中心に、防災事業、メディカルサービス事業、保険事業、地理情報サービス事業、不動産開発・販売事業および情報通信・その他の事業で、お客様のニーズに合致した、質の高いサービス・商品を提供することに努めました。

この結果、当連結会計年度における売上高は6,638億円(前期比1.4%増加)となりました。営業利益は991億円(前期比0.6%増加)、経常利益は米国における投資事業組合運用益57億円(前期は投資事業組合運用損30億円)等の計上があったため、1,096億円(前期比11.5%増加)、当期純利益は608億円(前期比27.8%増加)となりました。

<参考> ●連結子会社数 166社
●持分法適用関連会社数 26社
●1株当たり当期純利益 279円07銭

連結株主資本等変動計算書(要旨)

2010年4月1日から2011年3月31日まで

<単位: 億円> *注: 金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

	株主資本					その他の包括利益 累計額	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
2010年3月31日残高	663	830	5,074	△749	5,819	△233	665	6,251
剰余金の配当			△185		△185			△185
当期純利益			608		608			608
自己株式の取得				△ 0	△ 0			△ 0
自己株式の処分		△ 0		0	0			0
自己株式処分差損の振替		0	△ 0		-			-
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						△ 86	△ 47	△133
連結会計年度中の変動額合計	-	-	423	△ 0	422	△ 86	△ 47	289
2011年3月31日残高	663	830	5,497	△749	6,242	△320	618	6,540

貸借対照表(単体・要旨)

2011年3月31日現在

<単位：億円>

*注：金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

資産の部

流動資産	1,684
現金及び預金	746
現金護送業務用現金及び預金	546
未収契約料	115
売掛金	60
たな卸資産	54
短期貸付金	43
その他	116
固定資産	5,262
有形固定資産	1,183
建物	223
警報機器及び設備	614
土地	283
その他	62
無形固定資産	75
投資その他の資産	4,002
投資有価証券	209
関係会社株式・出資金	2,049
長期貸付金	1,182
長期前払費用	258
前払年金費用	143
繰延税金資産	138
その他	20
資産合計	6,946

負債の部

流動負債	1,104
買掛金	16
短期借入金	293
未払金	145
未払法人税等	124
預り金	203
前受契約料	222
その他	97
固定負債	257
預り保証金	182
退職給付引当金	40
役員退職慰労引当金	12
その他	22
負債合計	1,362

純資産の部

株主資本	5,586
資本金	663
資本剰余金	830
利益剰余金	4,841
自己株式	△ 749
評価・換算差額等	△ 2
その他有価証券評価差額金	△ 2
純資産合計	5,584
負債純資産合計	6,946

損益計算書(単体・要旨)

2010年4月1日から2011年3月31日まで

<単位：億円>

*注：金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

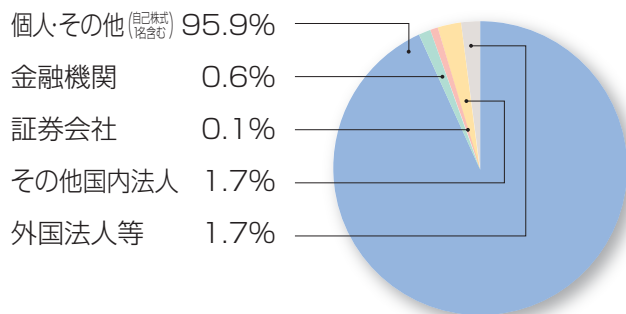
売上高	3,292
売上原価	1,912
売上総利益	1,380
販売費及び一般管理費	693
営業利益	686
営業外収益	88
営業外費用	30
経常利益	745
特別利益	1
特別損失	26
税引前当期純利益	719
法人税、住民税及び事業税	262
法人税等調整額	6
当期純利益	450

<参考> ●1株当たり当期純利益 206円50銭

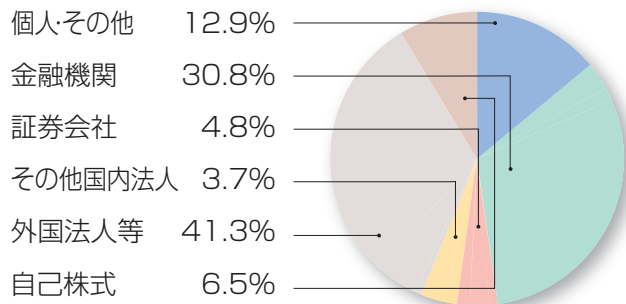
株式の状況(2011年3月31日現在)

1. 発行可能株式総数	900,000,000株
2. 発行済株式の総数	233,288,717株
3. 単元株式数	100株
4. 株主数	30,338名
5. 所有者別状況	

● 株主数比率



● 株式数比率



株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 6月下旬
- 剰余金配当の基準日 3月31日
- 中間配当制度 なし
- 上場証券取引所 東京、大阪
- 証券コード 9735
- 公告方法 電子公告
<http://www.secom.co.jp/koukoku/>
 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。
- 株主名簿管理人 特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

株式に関する各種手続きについて

- 証券会社に口座がある株主様は… 口座がある証券会社へお問い合わせください。
- 特別口座に記録されている株式の株主様は… 下記の特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行(株)へお問い合わせください。
- 未払い配当金のお支払いに関するお問い合わせは… 下記の株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行(株)で承ります。

株主名簿管理人・特別口座管理機関 **三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部**

〒137-8081
 東京都江東区東砂7丁目10番11号

☎0120-232-711 [平日 9:00~17:00]

手続用紙のご請求
 ☎0120-244-479 (音声自動応答)
 インターネットからのダウンロード
<http://www.tr.mufig.jp/daikou/>

会社概要

セコム株式会社

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-5-1

Tel: 03-5775-8100 Fax: 03-5775-8902

- 資本金 66,377百万円
- 社員数（グループ総数）47,741名（2011年3月31日現在）
- 事業内容

1962年、日本初のセキュリティ会社として創業。

1966年に日本で初めて開発したオンラインによる安全システムは、今では家庭や店舗、オフィスビル、金融機関、大規模商業施設などさまざまな施設に普及しています。

2001年からは、移動する人物・車輦向けの新たなセキュリティサービスを開始したほか、常駐警備システムや現金護送システム、各種安全商品などの販売を通じて、社会に安全・安心を提供しています。

セコムグループは、社会にとって安全・安心で、便利で快適なサービスシステムを次々に創造し、それらを統合化・融合化して、トータルな新しい社会システムとして提供する「社会システム産業」の構築をめざしています。

取締役（2011年6月24日現在）

取締役（最高顧問）	飯田 亮
取締役（最高顧問）	戸田壽一
取締役会長	木村昌平
取締役副会長	原口兼正
代表取締役社長	前田修司
取締役副社長	佐藤興一
専務取締役	小幡文雄
常務取締役	桑原勝久
常務取締役	中山泰男
常務取締役	伊藤 博
取締役	伊東孝之

監査役（2011年6月24日現在）

監査役（常勤）	荻野輝雄
監査役（常勤）	坂本正治
監査役（社外）	常松 健
監査役（社外）	安田 弘
監査役（社外）	山下耕平

* 監査役 常松健を独立役員として証券取引所に届け出ております。

執行役員（2011年6月24日現在）

代表取締役社長	前田修司
取締役副社長	佐藤興一
専務取締役	小幡文雄
常務取締役	桑原勝久
常務取締役	中山泰男
常務取締役	伊藤 博
常務執行役員	小河原俊二
常務執行役員	中村直英
執行役員	高岡 実
執行役員	森下秀生
執行役員	小松崎常夫
取締役	伊東孝之
執行役員	小松良平
執行役員	角田幸生
執行役員	竹田正弘
執行役員	吉村輝壽
執行役員	新井啓太郎
執行役員	吉田保幸
執行役員	布施達朗
執行役員	園田博道

もうご覧いただいていますか？ ご家族みんなの役に立つ、暮らしの情報が満載です！

セコム安心マガジン

「セコム安心マガジン」で検索してください。

セコム安心マガジン

検索

平日毎日
更新中！

火曜日 更新

頑張るシニア応援サイト
おとなの安心倶楽部

平日毎日 更新

独自の視点の安全コラム
月～金フラッシュニュース

木曜日 更新

安心子育て応援サイト
子どもの防犯ブログ

月曜日 更新

女性のための
あんしんライフnavi

水曜日 更新

豊かな食文化を育む
こだわりの美食

金曜日 更新

役立つ生活術を届ける
暮らしのあんしん百科

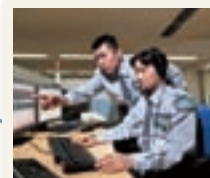
上記以外にもセコムならではの
多彩なコンテンツをご用意しています。
ぜひご覧ください。

- セコム防犯・防災入門
- 防犯・防災用語集
- あなたの家の防犯診断
- 今週のTwitter
- 犯罪情報リンク集
- メールマガジン登録
- 住宅用火災警報器早わかりガイド
- 鳥インフルエンザ対策情報サイト

表紙写真のご説明

セコム
コントロールセンター

ご契約先に設置した防犯センサーなどが異常を感知すると、セコム・コントロールセンターに信号を送信。異常信号を受信したコントロールセンターは、全国約2750カ所の緊急発進拠点に現場急行を指示。必要に応じて警察や消防機関に通報します。セコム・コントロールセンターは、全国に47カ所。24時間・365日、お客様の安全を見守るセキュリティシステムの心臓部です。



本誌は環境に配慮し、FSC®認証紙および
植物性インキを使用しています。

セコム コーポレート広報部 089-11-06-333